

「白老町人口ビジョン改訂版」 「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」

を策定しました

本格的な人口減少社会への危機感が高まるなか、人口減少に歯止めをかけ、まちの活力を持続発展させることが求められています。

本町では平成27年度に「人口ビジョン」と「第1期総合戦略」を策定し、ウポポイを核とした地方創生に取り組んできました。

この度、第1期総合戦略の計画期間が昨年度末をもって終期を迎えたことから、人口ビジョンの改訂とあわせて第2期総合戦略の策定を行うものであります。

白老町まち・ひと・しごと創生

人口ビジョン改訂版

(長期ビジョン 令和42年まで)

人口ビジョンは、本町の人口の現状と将来の展望を示したもので、まち・ひと・しごと創生の実現に向け、効果的な施策を立案する上での重要な基礎資料として位置付けられるものです。

●対象期間
2060年(令和42年)まで

●人口の現状分析と将来展望
本町の人口は、1985年(昭和60年)の24,353人をピークに減少に転じ、2015年(平成27年)には17,740人と、30年間で6,613人減少しています。この傾向は今後も続き、2045年(令和27年)には7,646人(社人研準低位推計)まで減少すると推計されています。人口減少段階をみると、全国・全道の動向よりも早く推移しており、2025年(令和7年)には、「第3段階(老年・生産・年少人口減少)」に突入すると予測されています。

このことから、人口減少の抑制をまちの重点課題に位置付け、めざすべき将来の方向と、人口の将来展望を次のとおり掲げ、その実現に向けた取り組みを総合戦略に盛り込み、地方創生を推進していきます。

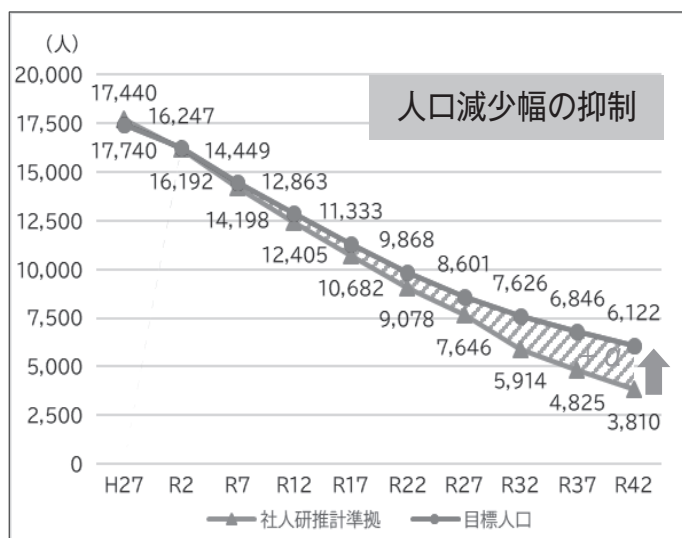
●目指すべき将来の方向

若い世代の人材誘致による人口構造の適正化

●人口の将来展望

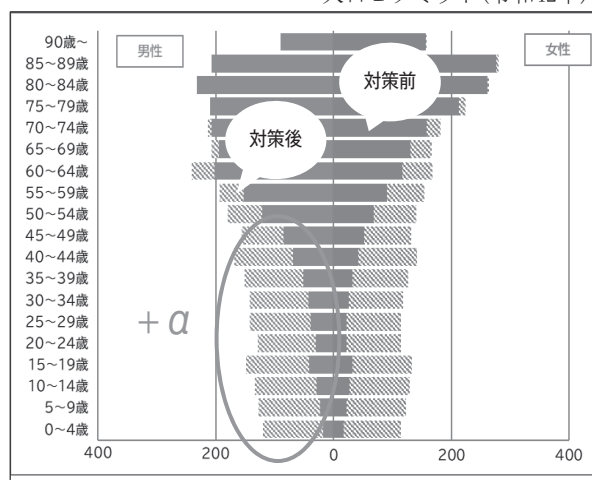
- ・ 将来目標人口を2045年(令和27年)で8,601人(+955人)、2060年(令和42年)で6,122人(+2,312人)以上とする
- ・ 生産年齢人口の割合を45%程度に維持する

< 人口の長期見通し >



< 人口ピラミッドの比較 >

人口ピラミッド(令和42年)



若者世代が増加し、人口構造が適正化